

具体的な一連の雇用管理に関する援助の業務または実務の経験

		法人としての経験	事業運営責任者の経験	事業実施者の経験
経験年数等	①氏名			
	② 経験年数	3 年	6 年	3 年
	③ 障害種別の経験		☒ 身体障害 ☒ 知的障害 ☒ 精神障害	☒ 身体障害 ☒ 知的障害 ☒ 精神障害
障害者の一連の雇用管理の援助に関する業務又は実務の具体的な経験	① 経営陣の理解促進	障害者雇用検討企業や障害者雇用実施企業の経営者へ積極的に会社見学を受け入れ、各社の業務のことから戦略面まで様々な意見交換を行いながら、弊社としてのノウハウを共有してきた。	弊社における障害者雇用に関する運営責任者として左記業務に従事（前職分も加算した経験年数）。	弊社における障害者雇用に関する現場責任者として左記業務に従事。
	② 障害者雇用推進体制の構築	仕組みから、障害種別を問わず個々人の能力が最大限発揮できる体制を目指して日々取り組みを行っている。 また内部以外に、もにす認定やジョブコーチ研修の企業訪問先に選ばれるなど、対外にもご納得頂ける体制構築を行っている。	これまでの経歴から現在まで、職場からの声を大切にして、各従業員がそれぞれ主体性を持って活動できるように制度や組織の編成や構築を責任者として対応している。	現場で事業を実施する立場で左記のような業務に従事。
	③ 社内での障害者雇用の理解促進	グループ会社の定型発達雇用者に対して、障害の基礎知識に関する研修を実施。また業務切り出しではグループ会社の部署所属の従業員にマニュアルを作成して頂いている。作成を通して配慮事項などを意識して頂くことが狙いの取り組み。 その他にもインクルーシブな職場を目指し、様々な取り組みを行っている。	弊社の責任者として、グループ会社の各障害者雇用促進責任者との相対を行い、左記の取り組みを先方の要望や意見を組み込みながら対応している。	左記の取り組みを現場観点で運営責任者と連携し、具体的な取り組みとして実施している。
	④ 当該事業所内における職務の創出・選定	力作業から事務、軽作業など、これまで切り出しを行った業務数は約90種類を超える。 業務数に捉われず、各業務の生産性も管理しながら常に意義のある職務を行えるよう取り組んでいる。	自らの経験から現在でも現場の状況を実施者と連携を図りながら把握し、生産性の側面も含めて職務が人材リソースの中で適切に運用できているかの管理に従事している。	左記の取り組みを現場の実施者として、障害を持つ従業員と共に業務管理に従事している。
	⑤ 採用・雇用計画の策定	グループ会社内での業務対応の需要に応じ、現状の弊社内での生産性と将来的な物量を加味して半期単位での採用・雇用計画を行い、これまで60名以上を採用してきた。	採用に伴うグループ会社との連携と弊社内の実施者とも連携を取りながら適切な採用計画を組めるよう取り組みを行っている。	現場の現状の生産性や業務量の温度感を把握し、運営責任者と連携を取り組みながら業務に従事している。
	⑥ 求人の申込みに向けた準備など募集や採用活動の準備	障害種別問わず、常に弊社の環境にマッチングするか、どうかを基準に実習メインでの採用に取り組んできた。 就労移行支援事業所や中ぽつ、特別支援学校から3年間で約200名の実習を受け入れてきた。	採用計画に即して、就労移行支援事業所や中ぽつ、特別支援学校などの関係機関と連携を中心に左記の取り組みに従事。	弊社内の実施者として左記業務に対応。
	⑦ 社内の支援体制等の環境整備	相談体制では定期面談や常時相談ができる社員の常駐、業務面でも障害特性に応じた業務アサインとマニュアルの整備など、全従業員が安心して働ける環境を目指して環境を整えている。	左記の取り組みを、実績からの豊富な知見を活かして支援体制の統括を責任者として取り組んでいる。	弊社内の実施者として左記業務に対応。
	⑧ 採用後の雇用管理や職場定着等	様々な定着支援事業所などとの連携や半期に一度の従業員への匿名アンケート調査を実施。また従業員の能力開発を目的としたジョブコーチ支援も積極的に導入している。	定着支援事業所やキャリアアセターなどの連絡機関と弊社責任者として定期的に連携を行い、左記の取り組みにも尽力している。	弊社内の実施者として左記業務に対応。

※事業運営責任者または事業実施者を複数名登録する場合は、2名以降の経験については別紙へ記載してください。

※（表面）1で、「対象障害者の一連の雇用管理に関する援助の業務についての実績を有する法人」を選択した場合は、下記の各項目について記載してください。

【過去3年間における実績】
●援助の件数
●支援業種
●具体的な支援内容